

02

喘息について

医療の
小ネタ

喘息やCOPDなどの呼吸器の病気の良い点でもあり悪い点でもあるのが「自分でわかる」ということです。例えば高血圧や高脂血症や糖尿病などは自覚症状が出にくいので、手遅れになっても気づかないことがあります、しばしばsilent killer（沈黙の殺し屋）と呼ばれます。



それに対して呼吸器疾患では、具合が悪くなれば、咳・息切れ・胸痛などの自覚症状が出ます。また、薬が効いているかどうか自分で判断することができます。そのような特色があるため、患者さんが中心となる医療体制が取りやすくなります。ざっくり言いますと、パルスオキシメーターと家庭血圧計さえあれば、自宅での自己管理が可能となります。あと必要なのは大体年に1回の肺機能検査と胸部X線ですが、これらの検査で重要なのは、経過を追うことによりわずかな変化を見逃さないということです。この点はわれわれにお任せください。

いくら上手に管理していても、風邪などをきっかけとして「急性増悪」をきたすことがあります。ときには入院が必要となる場合がありますが、現在当院では千葉大学呼吸器内科から4名の専門医を派遣していただいています。大学や大病院との太いパイプを維持しておくことは、患者さん方にとってのいざという時の大きな安心につながります。



ついでの話ですが、私は学生のころから何でもできる家庭医になることが夢でした。その夢を曲がりなりにも叶えておりますが、一応出身は呼吸器内科です。現在呼吸器内科医は絶滅危惧種ですから、多くの病院で専門医の確保に苦慮しております。そんな中で専門医が5名も仕事をしているクリニックは他には無いのでは？あれ？クリニックの宣伝になってしまいました(笑)